

第17回 みらいっこまつり

げんきいっぱい えがおいっぱい みらいっこ

日時：平成28年12月16日（金）、17日（土）10時～16時30分

場所：京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

〈催し内容〉

- 「エアマットであそぼう」
（公社）京都市保育園連盟
- 「みらいっこわくわくコンサート」
（公社）京都市私立幼稚園協会
- 「ラーメンマンとラーメン体操をしよう」
京都市保育士会
- 「赤ちゃんほっこりコーナー」
京都市営保育所長会
- 「みんななかよしお楽しみ会」
京都市立幼稚園長会

人形劇、オルゴール、コンサートなどたくさんイベントが予定されています。また、缶バッジ作り、おもちゃ病院、絵本リサイクル等も行います。

保育園（所）・幼稚園の保護者の方にご紹介いただくとともに、先生方も、ぜひとも一度遊びに来てください。

※15日（木）～17日（土）の3日間は、みらいっこまつりの準備と開催のため、開館時間が午前9時から午後5時までとなりますのでご注意ください。



共同機構合同研修会案内

こどもみらい館共同機構研修会
京都市教育委員会保・幼・小・中連携推進事業

九条中学校区における保幼小中連携

日時：平成29年 1月16日（月）15時～17時

場所：京都市総合教育センター

今年度は、九条中学校区での取組です。京都市立九条中学校、京都市立九条弘道小学校、京都市立九条塔南小学校、そして中学校区内にある就学前施設との連携についての報告を聞いて連携の大切さについて学びます。

*詳細は、後日通知文、チラシ等でお知らせいたします。

幼児期の保育における大人のかかわり

講師 長瀬 美子 大阪大谷大学教授

幼児期には大人が子どもにしっかりと共感することと、そこから子どもたちの健やかな発達を援助することが大切です。

子どもが主体となれる生活をつくるためには、手がかりを基に見通しを持ち、子どもが自分で考えて判断し行動することが大切です。また、当番活動のように、協力する経験や自分の行動が自分が嬉しいだけでなく、他人の役に立つという喜びを経験したり、子ども自らが主体となって問題を解決し、その過程の中で人との関係が深まる話し合い活動も大切です。

次に幼児期に大切にしたいことは、あそびを通して達成感を感じ、知的好奇心、仲間関係を育てることです。保育者は、子どもたちのあそびでの発見を意欲につなげ、子どもたちが自分たちで考え、気付くことが楽しくなる環境づくりをしながら一緒にたくさん遊びます。そして、子どもに興味や関心が高まった時、それを確かめる手段があり、その思いを聞いてくれて共感してくれる人がいること、楽しいことを一緒にしながら子どもたちが仲間となっていくことが、あそびを通じた関係づくりで大切にしたい点です。幼児期の保育者はこのような観点から、ふさわしいあそびをどう選んでいくのかが問われ、あそびの面白さがどこにあるのかを知り、そこにどんな関係が生まれてくるのかを認識して働きかけることが重要です。

また、私たち保育者は限られた園生活の中で、その時々々の年齢での経験が就学の為ではなく、就学のしっかりとした土台となることに意識をもって取り組む中、幼児期に必要な経験を見通し、必要な教材や環境、援助について考え計画的に保育することが求められます。そして、子どもの言葉のままではなく、内側にあることが何かを見つけ分かつとする姿勢で子どもに向き合い、受容しながら子どもが次に向かっていけるよう共感するということが子どもの「できた」の実感を作ります。

そして、保護者は目に見えることばかりに関心が向きがちですが、日々保育で大切にしている見えにくいものが後々の学びにつながることを保護者に伝える力も保育者に求められています。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

自ら学ぶ楽しさをつなげる

～小学校と一貫性のある教育課程の編成をめざして～

講師 古賀 松香 京都教育大学准教授

今、社会情動的スキルに注目が集まっています。ペリー・プリスクール研究等から、幼児期において学校のテストなどで測れるような「認知的スキル」を身に付けるよりも、忍耐力、自己制御、自尊心といった人との間で自分を調整しながらよりよく生きようとする「社会情動的スキル」を身に付けておく方が、大人になってからの生活に大きな差を生じさせることが明らかになったからです。知識として教え込むのではなく、「学ぶことが楽しい」「自ら学んでいこう」と思える子どもを育てていこうということです。

保育園(所)、幼稚園、認定こども園等全ての幼児教育施設においては、このような子どもを育てる保育がなされているかが問われます。次期要領・指針の改訂においては、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」が示されることになりました。到達目標ではありませんが、幼児期に本当に育てておかなければならないことは何なのかを考え、これらの視点で子どもの育ちを捉え、保育を見直していくことが大切です。

小学校学習指導要領の改訂においても、幼児教育施設で育ててきた姿を基にしてスタート期を進めていく大切さが大きく打ち出されます。子どもたちが安心、安定して過ごせることが小学校での生活を支えていきます。「先生が大好き」「友達がいることが楽しい」「学校って楽しい」と思えることが「学ぶことが楽しい」をつなげていくのだと思います。

そのためにも、就学前施設と小学校の先生同士がつながり、互いの持っている専門性を学び合う「連携」と幼児教育と小学校教育をカリキュラムでつなぐ「接続」を進めていっていただきたいと思います。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を
進めます。
「京都はぐくみ憲章」より



この印刷物が不要
になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ!



*上記2つの要約は、講義をもとに編集したものです

発行日 平成28年11月21日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909